

おじいちゃんの大好物

いしかわ
石川

なつき
夏樹

私のおじいちゃんは、甘い物が大好きです。

けいろうの日やおじいちゃんのおたん生日に

は、お兄ちゃんとお姉ちゃんといっしょに大

福やおまんじゅうをおげていました。おじい

ちゃんはずっとここにこしながら、

「ありがとうね。」

と喜んでくれていました。

おじいちゃんは、パーキンソン病という病

気です。私が生まれる前から、この病気がた

たかっています。手足がしびれたり、ふるえ

たりして、上手に歩く事が出来ません。食事

の時もおはしをうまく使えずに、食べ物をつ

ぼしたりしてしまいます。すわっていても体

がどんどんかたむいてしまいます。私が小さ

なころは、おさんぽや運動をして、リハビリ

をがんばっていました。たが、どんどん体がた

くなり、転んでけがをすることが多くなっ

てしまいました。そしておじいちゃんは、一日中

1
5
10
15
20
家の中でも、ごすようになりましした。トイも
一人では行けなくなり、体の小さなおばあ
ちゃん、がささえて行くようになりましした。おふ
ろは、デイスタービスで入れてもらっています。
どんどん病気が進んでいくおじいちゃんを
見て私は、
「っらいだるうなあ。」
と思いました。

10
食事の時も、すぐにせきこんでむせてしま
うので、おじいちゃんの大好きな大福やおま
んじ^ㇺ、うが食べられなくなりましした。私は、
おじいちゃんに喜んでもらいたくて、お母さ
んとお姉ちゃんに相談をしました。そして、
大福の味を変えず、むせないで食べられるよ
うに工夫して作ってみることにしました。

15
まず、おまんじ^ㇺを細く切っておなべに水
を入れ、弱火でいます。そしてかたくり粉で
ころみをつけて、おじいちゃんが食べやすい
ように作りましした。私達が味みをしてみると、
おまんじ^ㇺの味がそのまでおいしかったの

で、すぐ近くに住むおじいちゃんの家に行きました。

おじいちゃんはいつものように大きな昔でテレビを見ていました。

「おじいちゃんはおまんじゅう食べる？」

と聞くと、おじいちゃんは、にこにこしながらうなずきました。おばあちゃんが小さなスプーンでトロトロになったおまんじゅうを、おじいちゃんのお口にしました。すると、おじいちゃんは、とてもうれしそうな顔で、

「おいしい。」

と言ってくれました。私は、おじいちゃんがおいしそうに食べているのを見て、とてもうれしかったです。これから、おじいちゃんが食べやすいように工夫したり料理を考え、作ってあげたいと思います。